ソラペン。

ハルキゲニア

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
ソラペン。

【Ｎコード】
Ｎ５０９２ＢＡ

【作者名】
ハルキゲニア

【あらすじ】
漫画家として活躍するひきこもり少女、その世話を焼く主人公。二人の温かくも寂しい世界に、問答無用の突風が吹き抜ける。「私にひれ伏しなさい。とりあえずもっとコーヒーゼリーを持ってくるのよ。早く！　早くして！　あれがないと、私耐えられないの。お願い、コーヒーゼリーをちょうだい。何でもしますからぁ」吹き飛ばされた二人が見たものは、眩しくて少し騒々しい新しい世界だった。

運命ノ出会イ

あるいはそれは一目惚れだったのかも知れない。
ガラス越しに通りを見つめるつぶらな瞳。不思議な光沢を持っていて、微笑んでいるようにも、憂いを秘めているようにも見える。
その瞳を覗きこんだ瞬間、オレは運命を確信した。
そして世界が変わった。
街の雑踏が遠く聞こえ、代わりにオルゴールのような可憐な音色が空間を満たす。
その中でオレは異邦人のように拠り所をなくして、ただ立ち尽くすしかなかった。

「あの、どうしましたか？」

耳の奥がくすぐったくなるような、少しかすれた声。自分の顔が火照っているのが分かる。まともに目を合わせることができない。

「いえ、お構いなく、じゃなくて、ええと」

まともに言葉が出てこない。心配そうにこちらを窺う視線から、オレは逃れられない。
じっとりと汗ばむ手を何度か閉じたり開いたりしつつ、やっとの思いで口を開く。

「ショウウィンドのペンギンのぬいぐるみを頂きたいんですけど。このくらいのやつ」
「はい、かしこまりました。レジの方で少々お待ちください」

愛想よく微笑んで、店員さんはショウウィンドへ商品を取りに向

かった。
オレは大きく息を吐いて、しばし放心する。
ファンシーショップの店内である。男の自分にとって、これ程居心地の悪い空間はない。恋人か女友達にでもついて来てもらえばよいのだろうが、あいにく恋人なとおらず、唯一の女友達は重度のひきこもりだった。

「それに、誕生日プレゼントを買うのに本人について来てもらうってのも無粋だろ」

女性客の視線を避けるように商品棚の影を縫ってレジまでたどり着くと、先ほどの店員さんがすでにぬいぐるみを包装しはじめていた。

「ラッピングにご要望はございますか？」
「えと、その、適当に、お願いします」
「はい。もう少々お待ち下さいね」

ペンギンがふわふわしたひも状の飾り等とともに、透明な包装紙にくるまれてゆく。

「……」

やはりこのペンギンからは何かを感じる。一見ただのぬいぐるみでしかないのだが、妙な存在感を放っている。マネキンから時折感じる気配と似ているかも知れない。
小奇麗にラッピングされたぬいぐるみを、さらに不透明な袋に入れてもらって、オレはようやくその異世界から脱出した。

「元々はお高いチョコレートでも買うつもりだったが、まあいつ

は子供っぽいし、これでよろこんでくれるだろ」

まだ冷たい早春の風が吹き抜ける通りを歩きながら、独りごちる。

オレはまだ知る由もなかった。この時の出会いが、まさに運命とでも呼ぶべきもので、この先の未来を大きく変える転換点であったことを。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n5092ba/

ソラペン。

2012年1月14日00時46分発行